

サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤り (10)

二〇一五年七月二十八日付で、日本統一教会（現 家庭連合）元会長の江利川安樂氏が「退会届」を郵送してきました。そこには、文亨進様を中心とした米国・サンクチュアリ教会の下で、日本サンクチュアリ教会総会長兼協会長として出発するとありました。

サンクチュアリ教会は、真のお父様のみ言と伝統が真のお母様によって覆されていると主張し、お母様のなさることをことごとく否定しています。それらの主張は、お父様がお母様と共に立ててこられた勝利圏を否定するものであり、真の父母様を中心とする統一家の一体化を損ねるものです。以下、サンクチュアリ教会を支持する人々の言説の誤りを指摘します。

なお、彼らの言説の誤りを総合的に理解し把握するためには、「真の父母様 宣布文サイト (http://trueparents.jp/)」の掲載文や映像をごらんください。（教会成長研究院）

注・本文中、真の父母様のみ言や『原理講論』および世界公文等は「青色」で、サンクチュアリ教会側の人たち等の主張は「茶色」で色分けしています。

【20】「天一国四大聖物は、偽物であり、その聖酒を飲むことは『墮落行為』である」という批判に対する応答

今回の「天一国四大聖物」伝授および、それに基づく聖酒式について、サンクチュアリ教会側の人は、「天一国四大聖物は偽物である」「聖酒式に参加す

ると『墮落する』『地獄へ行く』

などの言葉で自分たちになびいた人々を畏怖、困惑させ、聖酒式に参加させないように仕向けています。このような言動は、救いの道を閉ざす全くの『サタンの業』と言わざるをえません。私たちは、今回の「天一国四大聖物」の伝授および聖酒式の意義と価値を、いま一度確認しておかなければなりません。

真の父母様ご聖婚五十六周年を機として与えられた「天一国四大聖物」、およびそれに基づく今回の恩赦は、空前絶後の歴史的な勝利圏に基づいて与えられた恩賜です。

今回の恩赦について、「天一国四大聖物伝授及び聖酒式」の意義と精誠条件」という公文に、次のような説明があります。

「真のお母様は、真のお父様の聖和以降、真のお父様と完全一体を成し遂げられた土台の上で、三年間のこの上ない侍墓精誠を全人類に代わって直接捧げながら、天の父母様に捧げる真のお父様の最後の孝の精誠を共に尽くされた。そして、その基台の上で歴史的に空前絶後の基元節三周年を迎え(た)」(二〇一六年六月二日付、抜粋)

二〇一二年九月三日(天曆七月十七日)の真のお父様の「聖和」以降、人類の「真の父」は

な姿」に生み変えてくださる恩恵でした。

しかし、その後の私たちの姿を真の父母様がごらんになり、本然の姿ではないことに対して心を痛められ、「もう一度」恩赦の道を与えてくださったのが、今回の聖酒式です。これは、霊界の真のお父様と地上界の真のお母様が渾然一体となって与えてくださる恩賜です。

②「天一国聖塩」の恩賜について

「天一国四大聖物」で、従来の聖物と異なる点の一つは、聖塩に新しい意義が付加されたことです。従来の「聖塩」は、万物を聖別するために用いられてきました。ところが、今回の天一国聖塩は、私たち祝福家庭が「聖和」したとき、その「聖体(遺体)」を聖別するためにも用いることができるという貴い意義がそこに付加されました。『原理講論』では、死体に関して、

次のように論じています。

「人間は墮落により、その死体までもサタンの侵入を受けたのであった。ところがヤコブは、祝福を受けて、聖別された体であったから、彼の死体も、サタンと闘って分立したという条件を立てるため、その死体に、四〇日間、防腐剤を塗ったのである。したがって、この路程を見本として歩いたモーセも、その死体をもってサタンと闘ったのであり、またイエスも、その死体をめぐって問題が起きた」(三四五〜三四六ページ)

ヤコブは、実体的な家庭的勝利圏を立てることができたので、その死体は聖別され、カナン地の墓地に葬られ、今日においてもヤコブのお墓が伝えられています(創世記五〇・13)。

しかし、モーセは霊的勝利圏しか立てることができず、カナンの地に入ることができなかつ

された聖酒です。今回の「天一国四大聖物」の聖酒は、その天一国聖酒が、真のお母様の三年間の「侍墓精誠」の勝利の基台の上で新たに与えられたものです。すなわち、今回の聖酒は真の父母様(真のお父様と真のお母様)によって与えられたものです。

サンクチュアリ教会側の人は、

「(今回伝授された)聖酒を飲むことは『墮落行為』である」と批判しますが、これはほとんどない主張です。聖酒は、人間始祖の立場で勝利された真の父母様の勝利圏によって作られた歴史的価値のあるものです。天一国聖酒は、真のお父様が聖和される前、地上において作ってくださったもので、さらに真のお母様の「侍墓精誠」の基台の上で新たに与えられているものです。たとえ真のお父様が霊界に行かれた後であってもその勝利圏は永遠であり、今も有効です。これは、キリスト教にお

いても、イエス様が「昇天」されて霊界に行かれた後も、パンとぶどう酒による「聖餐式」で霊的救いの恩恵が与え続けられていたのと同じことです。

真のお母様は、「天一国四大聖物」のための祈禱の中で、次のように祈っておられます。

「もう一度真の父母様の名前で天の父母様に、矜恤のこの聖物を通じて新しく誕生し、永遠の本郷苑に行くことができる影のない、一点もサタン圏内の痕跡がない、そのような姿で故郷の地に行くことができる、最後に真の子女の姿になることができる祝福の恩賜を下さるこの聖物……」

真の父母様は二〇一三年の基元節聖酒式で、祝福家庭と食口たちに対する恩赦と入籍を与えてくださいました。それは、私たちを「影のない、一点もサタン圏内の痕跡がない、そのよう

たため、その死体は行方不明となりました(申命記三四・6)。イエス様の場合も、地上で新婦(真の母)を立てることができず、その肉体がサタンの侵害を受けたため、モーセのときと同様に、その聖体(遺体)は行方不明となりました。

ところが、真のお父様の場合は、地上で人類の「真の母」を立てられ、勝利した「真の父母」となられたため、その聖体はサタンに侵害されることなく、聖別された聖体として「天正宮本郷苑」に安着されました。このことは復帰摂理歴史上、かつてない大きな勝利です。

ちなみに、真のお父様が「基元節」を前にして聖和されたことから、分派活動をする人で、「お父様は使命を全うできずに聖和された」と語る人がいます。しかし、もし、そうであれば、お父様の聖体も、モーセやイエス様と同様に、行方不明となったことでしょう。しか

し、お父様の聖体は「天正宮本郷苑」に安着されました。お父様は「すべて成し遂げました」と祈られ聖和されましたが、今回、真のお母様が三年間の「侍墓精誠」をささげられた基台の上で、その聖体は、完全に歴史的に「天正宮本郷苑」に安着することができたのです。聖体が安着されたのは、お父様が実体勝利を成し遂げてから霊界に行かれたことの証拠です。

このことは、公文に「天のお母様に捧げる真のお父様の最後の孝の精誠」とあるように、霊界における真のお父様の精誠と、地上界における真のお母様の三年間の「侍墓精誠」とが完全に合致して成就された天宙(霊肉界)的な出来事です。

真のお父様は、祭祀について次のように語っておられます。「今までキリスト教で、祭祀を捧げられないようにしたのも一理があるのです。祭祀は、神

様と全人類の真の父母が受けなければなりません。上の代の先祖たちが天でまず待たられなければならぬのです。ところが堕落によって、それを今までは禁止してきましたが、今や復帰時代ににおいて祝福を受けたので、これからは先祖たちに待たなければならぬのです」(八大教材・教本『天聖經』一〇八〇ページ)

このように、祭祀は、まず「神様と真の父母」が受けられなければならぬものであります。ところが、人間始祖アダムとエバの堕落によってその肢体が「サタンの宮」となってしまうことで、人類歴史において、神様と真の父母様に対する「祭祀」がなされないまま今日まで来しました。

しかし、真のお父様が霊界に行かれ、地上界に真のお母様がおられることで、本来、アダムとエバが墮落していなければ受

けるべきはずであった「神様と真の父母」に対する「祭祀」が、今回、真のお母様の三年間にわたる「侍墓精誠」の勝利によって、人類史上、初めて成されたということになります。

その歴史的勝利圏を相続する祝福家庭は、各自の聖和後、その聖体(遺体)が自然界に還るとき、真の父母様の勝利圏を相続する恩恵として、今回の天一国聖塩によってその聖体を聖別することが許されるようになるという、今までなかった歴史的恩恵にあずかることができるようになりました。

③「天一国聖土」の恩賜について  
今回、「天一国聖土」が分配されたことも、新たな恩賜と言えます。

「聖土」について述べると、真の父母様は二〇〇六年六月十三日に「天正宮博物館入宮戴冠式」を挙行されましたが、その

式典を七日後に控えた六月六日、天正宮博物館の前庭で十二人の大陸代表者から世界各地の聖地の土と聖水の奉獻を受け、天正宮博物館の聖土と水を入れて混ぜられ、再創造された「聖土」を再び大陸会長に伝授された経緯がありました。

今回の「天一国聖土」は、三年間の「侍墓精誠」をささげた勝利条件の上で、真のお父様の聖体が安着した「天正宮本郷苑」の聖土を、全大陸の祝福家庭に分配されたものです。

この「天正宮本郷苑」の聖土分配は、全世界の祝福家庭を真のお父様に連結してくださろうとする真のお母様の特別な計らいがあつて与えられた恩恵です。「聖土」が分配されるということも、今までの聖物にはなかった特別な内容です。

徳野英治会長は、これらの「天一国四大聖物」について次のように語っています。

「私たちは、最後の最後まで天の父母様と真の父母様に忠節を貫き、美しい姿で霊界に旅立たなくてはなりません。そうであれば、私たちは、永遠なる時間、空間の世界である霊界で、天の父母様と真の父母様と共に暮らすことができないのです。霊界で私たちと共に永遠に暮らしたいと誰よりも強く願ってくださったのが、真の父母様です。そうであるがゆえに真のお母様は、真の父母様ご聖婚五十六周年記念式(四月二十二日)で、貴い天一国四大聖物(聖酒、聖塩、聖燭、聖土)を下賜してくださいました。これは、霊界の真のお父様とご相談のうえで決断された内容です」

(第三十四回全日本聖和祝祭のメッセージ、『世界家庭』二〇一六年七月号、一七ページ)

このように、今回与えられた「天一国四大聖物」は、真のお母様の三年間の「侍墓精誠」の

条件によって、霊界の真のお父様と、地上界の真のお母様が相談され、特別に与えられた恩賜であるということです。

それゆえ、サンクチュアリ教会側の人たち、およびそれに同調する人が述べている「天一国四大聖物は偽物」「その聖酒を飲むのは墮落行為」「飲めば地獄に行く」、また「今回の四大聖物の伝授は、現代の免罪符もしくは踏み絵である」といった批判や風聞は、「天一国四大聖物」が持つ空前絶後の歴史的な意義と価値を分らず、真のお母様および家庭連合に否定的な人たちが、かつて、邪推して語っているものにすぎませんし、自分たちの存在が否定されることを恐れての言動と言えます。

今回の「恩赦」は、肉身をサタンに侵害されてその「聖体」が行方不明になったイエス様も成しえなかった歴史的内容であり、今まで歴史上かつてなかつ

たほどの勝利圏によって与えられた歴史的な意義と価値のあるものです。それは、霊界と地上界の両世界にわたった人類の「真の父母様」によって与えられた、とてつもなく大きな恩恵です。

それゆえ、サタン側も、この歴史的恩恵を祝福家庭が受けていくことを非常に恐れており、一人でも多くの人々をその歴史的恵みから漏れさせようと必死になって、「悪口」の限りを尽くし、惑わそうとしているのだと言えるでしょう。

私たちは、サンクチュアリ教会側の人々が語る「墮落する」「地獄へ行く」という畏怖、困惑させる言葉に影響されることなく、霊界の真のお父様と、地上界の真のお母様が一体となって与えてくださった「天一国四大聖物」伝授と聖酒式による恩赦という、歴史的恩恵にあずかっていかなければなりません。